

NIHONJIN NO WASUREMONO
日本人の忘れもの
 第2部 忘れもの 32
 第2部 忘れもの 32
 第2部 忘れもの 32

伝統文化

私が文化財保護の仕事に関わり始めた頃のことである。偶然目にした一枚の写真に大きなショックを受けた。無数の仏像が首や手足をもち取られ、悲惨な姿で無造作にかき集められている。そんな光景の写真であった。一体これは何事か起きていたのだろうか。それはどう見ても火災などの大きな災害の爪痕といった状況でもない。しかもこの光景がわが国で起こった出来事であったのだろうか。一瞬目を疑うほどであった。

廃仏毀釈の実態に戦慄を覚えた

これは紛れもなく明治維新直後から日本国内で嵐のように吹き荒れた社会現象の「コマ」である。神仏分離令とか廃仏毀釈といった言葉は歴史でも習っているが、その実態はこうした結末を招いていたことを知り、ある種の戦慄を覚えた。これに更に文明開化の嵐が襲いかかる。こうしてかけがえのない文化に対し人間が無関心になるとその波及は際限を知らず、今では日本の伝統文化の象徴のようにして輝きを放っている奈良興福寺の五重塔が25円で、姫路城が100円で、彦根城が700円で売りに出されるといふ事態にまで



佐々木丞平
 京都国立博物館館長

京都国立博物館館長

伝統や文化がもつと
 優位性をもって語られても
 良いのではなからうか。
 それこそが「国格」であろう。



伝統文化の基盤を支えるため明治28年に創建された帝國京都博物館(現京都国立博物館本館)。

発展してしまつた。幸い取り壊しにそれ以上の経費がかかるということではなくなった。救済に心血を注ぐ人物が現れたりして、いずれも破壊は免れたものの、人間の無関心が引き起こす結果には空恐ろしいものがある。これはごく一部の例に過ぎない。丁度その頃、明治政府は欧米から多くのお雇い外国人を招き入れていたが、彼らの目にもこうした光景は異様に映つた。例えば明治天皇の侍医を勤めていたドイツ人ヴェルツなどは、日本人はどうしてこんなにも易々と自らの伝統文化を放棄してしまうのだろうか。と嘆き、驚きもしている。

輝き放つ伝統文化に目、意識、関心向ける視点を

長い時の経過を経て存在している伝



統というものは極めて繊細なものであり、人間の目や意識が常に注ぎ続けられなければもろくも崩れ去るものである。しかし、伝統といふものこそ歴史を単なる時間の連続で終わらせるのではなく、歴史に輝きを与えるものである。一つの国が輝いているかどうかは、この伝統をしっかりと握っているかどうかにかかっているように思える。伝統に支えられたブランド商品がやはり個性と輝きを持つていて世界的にも注目されるように、世界に注目されるブランド国家としての国の格を堅持するためには、どうしても伝統の輝きを備える必要がある。

一國の実態を支えているのは政治であり経済であり教育である。このいずれの領域においても、伝統や文化がもつと優位性をもって語られても良いのではなからうか。それこそが「国格」「国格」といえるものであろう。日本がかつてのような惨事というべき異様な事態を繰り返さないためにも、時間の経過に晒され、耐え抜き、洗練された輝きを放つ伝統文化に、目を向け意識を向け、関心向ける視点を、政治の中にも経済の中にも教育の中にも設定することを忘れてはならないと思う。

●ささきじょうへい
 1941年、兵庫県生まれ。京都大学大学院文学研究科修了後、京都府教育委員会、文化庁で文化財保護行政に携わる。その後、京都大学大学院文学研究科教授を経て現在、独立行政法人国立文化財機構理事、京都国立博物館館長、著書に「手謝薬材」「池大雅」「浦上玉堂」「円山応挙研究」など。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

きょうの季寄せ(二)

節分に鬼の面を飾る 誰が兒ぞ

水落路石



きょうは節分、明日から春である。「誰が兒ぞ」は「誰が兒ぞ」と読むのか、「誰が兒ぞ」とも読めるが、口調は前者が落ち着く。「が」は連体格を示し、句意は節分で鬼の面をつけているこの子はいいたいとさんのお子かねと聞いただしている。露石に京都を詠んだ句が多く、その一つ「大文字に残んの雪や春ままだき」(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

佐山福繁

京都府京都市上京区 85 歳

以前、「ジャパンスピリッツ in 京都」の華の競演」が展覧された。今や世界に息づくわが国の伝統文化として、その美を各流派が競い立つ華麗さ、荘厳さに私はしばしばその場で立ちつくしてしまつた。趣味として始めていた生け花にこの様に鋭く大きな道があることを私は知るようになった。

連続として受け継がれ、たゆまぬ努力で築き上げられた、華の道。その伝統を生み育てて来た先人の「こころ」こそ、世界に誇る日本の文化であり、「こころ」ではないであらうか。

私はこの日以来、ひっそりと野に咲く草花、絢爛豪華に咲き誇る花の命の不思議、その美しさの本質をめぐる想像もつかない大きな迷路に誘い込まれる事になつてしまつた。そして、花の存在が米寿に近い私の生命に、いや私の魂に、忘れていた花の「こころ」を呼び起したのかもしれないと思ひ始めている。

「きょうの心伝て」募集

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか? 暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、派司する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8166 京都府京都市上京区 857-7 京都新聞 COM「きょうの心伝て」係まで。

●日本人の忘れもの第2部のバックナンバーは、京都新聞ホームページでご覧いただけます。http://kyoto-nj.jp/kp/kyo_np/info/nwc/

複合機「ApeosPort」は、富士ゼロックスの新しいクラウドサービス「Working Folder」に接続できる機能を標準搭載。情報共有の出入口として、さらに進化しました。クラウド上のフォルダーに複合機から直接アクセスできることで、文書の登録やダウンロード、さらに出先からの出力指示も可能になります。例えば、外出先でもiPhone/iPadなどのモバイル端末やPCから「Working Folder」を参照することで、複合機で受信したファックスを閲覧できる「ペーパーレスファックス受信」環境を構築し、業務の効率化を支援。インターネットを介して、複合機、PC、モバイル端末が連携することで実現した、場所に縛られない情報共有により、オフィスに新たなクラウドの使い方を提案します。

※1 インターネット上のドキュメント共有環境を提供する月額課金制のクラウドサービス
 ※2 DocuWorks Folder for iOS 1.0が必要。App Storeから無償でダウンロードできます。iPhone, iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

複合機から新しいオフィスを考える。
 ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275



複合機が、クラウドする。

